ます。 私達の義務とも考えられ

の中に気負いなく、位置

その意義を残りの人生

その義務を果たす一つ

それだけに当然社会へお

返しをしてゆくことは、

の恩恵を有形無形に受け

とが求められています。

れて行動できるよう、

らが「生きる権利」や

「生きること」は社会

T

「生」を全うするこ

どんな老いも生き抜い 老いは自然のことであり、 せられました。人として 歩んでいることを認識さ 分も老いの道をまさしく 時の流れの非情さに、自 の老いの姿に接しました。

ることであると思います。

って約一年、仲間達と共 のべる役割の一端をにな ささやかながら手をさし

にやってきました。

久しく会えなかった人 やしらしゅしらしゅしらしゅしらし

き、ともに生かされてい じ人間として、ともに生 ア活動を選びました。 の方法としてボランティ

市民に啓発すると共にボラ ンティアの活動状況を広く

ビデオグループ「VTRス

制作は、市立婦人会館の

ターでは、ボランティアセ

市社協ボランティアセン

デ

制 作

> 主 る

ンター及び市社協登録ボラ

を制作することになりまし

めてもらうことを目的に

3年 12月 10日 (金) 平成 1.号 ers 1

行 兖 人

社会福祉法人 费申市社会福祉協議会 ボランティアセンターだより編集委員会 〒560 農中市中核塚2丁目28-7 206 (848) 1000

ボランティアセンターに

日々入ってくるボランティ

多いもののひとつに「障害 アへの援助依頼の内、最も 助」があります。 者や老人対象の外出介

リフト付き自動車(車 ガスグループ福祉財団 降できる)を購入し、 の後部から電動リフト より一部助成を受けて、 により車いすのまま乗 そこでこの度、大阪

と共にさわやかなイメージ のメンバーが、リフトの扱 ィアグループ「みちしるべ 活動している登録ボランテ い方などを教わって試乗を すると早速、送迎を中心に をかもしだしています。 い号」と書かれた青い文字 「ユゥーあい号」が到着

ますね」と話しておられま

した。

お年寄りの通院などの送迎

これまで障害者の方や、

動の幅が一層広がっていく

とよって、ボランティア活

ものと期待されています。

もご利用できる、リクライ な方や、寝たきりの方など ています。 ニング式の車いすを設置し

車体は白で、「ユゥー

市民の方に、ボランティア 活動に行けば、より多くの が出され、「これに乗って れれば大丈夫」などの感想 少し手間取ったけれど、 で乗れる大きさで、乗りや 活動の様子を知ってもらえ い」「リフトを扱うのに 「普通自動車と同じ感覚

されました。

できます

えている時に、豊中市社

私にもできるボランテ

ねたきりの方や、

車イスでも簡単に乗車 を聞き、すぐ入会しまし グループ「小さな手」 事を知りました。 をみて登録ボランティ 広報紙「みんなの福祉」 会福祉協議会(市社協)の ィアセンターに出向いて 「小さな手」の活動内容 早速、市社協ボランテ

つようになり、心より喜 ィア活動がないかなと考

きるので少しずつ役に立 幸いにも私は洋裁がで では表わせないものです しでも社会の役に立ちた (庄内東町) いと思います。 てより良い物を作り、 を借りながら、勉強をし 今後も色々と皆様の力

山口三恵工

た時の喜びは本当に筆舌 使う事のできる物ができ の不自由な方が心地良く んでいます。

少

ボランティア保険ご 安心してボランティア活

ましたが、今後はこの「ユ などを利用して行なってき イカーや、一般の交通機関

に、登録ボランティアのマ

ゥーあい号」を活用するこ

リフト付自動車が導入されました。

市社協ボランティアセンターにこの程、車いすのままで乗降ができる

したリフト付自動車 と命名されました。 結果、「ユゥーあい号」 アから愛称を募集した 市社協登録ボランティ

ユゥーあい号

多しいしゃしいしゃしいしゅしいしゃ! しては比較的小型のた リフト付きの自動車と 「ユゥーあい号」は また、 狭い道でも対応で 身体の虚弱

づけていきたいと思って された人達」その人達自 る地域社会の中で、何ら かの要因によって「閉ざ 「学ぶ権利」を手に入 ンティアに対する理解を深

「ビデオを初めてさわります」と 真剣なポランテ

ボランティアがあたります。 ボランティアの中でビデオ の方々の協力を得て、登録 タート」(代表・松山歳子) 撮り方や操作方法等の研修 オ編集会議では、ビデオの に開かれた第一回目のビデ さわります 合われ、「初めてビデオを や、ビデオの企画等が話し なります。」とワイワイ楽 しく行なわれています。 去る十一月十八日 (月) が、大変勉強に

せられます。 いを込めた作品に期待が まりました。 います。 介など多彩な企画になって まなボランティア活動の紹 して急ピッチで制作がはじ ンターの業務内容やさまざ 平成四年二月完成をめざ 多くのボランティアの思 内容は、ボランティアセ

「ボランティア活動ビデオ

ビデオ操作を指導する

保険の種類	ポランティア保険	有偿活助保険	子 供 保 쒗	行事保險
加入对象	ボランティア活動に 参加する方	府下、地域を対象 として有償活動を 行っている団体	地域で活動している 子供を中心としたグ ループ	ボランティア保険の 加入対象になるグル ープ、団体が主催す る行事
掛 金	年間1名 300円	年間1名 1000円	年間1名 150円	宿泊なし 1名 20円 1泊2日 1名160円
保険期間	毎年、4月から翌年3月31日家での1年間 (途中加入の場合、毎月1日、10日、20日から発効)			行事期間中
# 込期限	それぞれの保険発効日 (1日、10日、20日) の 2日前まで			行事開催日の 1週間前まで

保険)があります。 動や地域活動に取り組んで ア補償制度(ボランティア いただくためにボランティ

どうぞご利用下さい。

現在大変注目されています。入所する通過型施設として、 戻るまでのリハビリ目的に、 見学が行われました。 また、特別養護老人ホーム 老人が病院退院後、自宅に 十五日(金)老人保健施設の 活動の一環として、 の入所待ちの間短期的に 老人保健施設は、



津」を見学しました。

十一月 要介護 族)の 中市老 人介護 0

中津病院」があることが大 以上である等の条件と共に 院治療を要しない、 は判定委員により病院の入 とでしたが、入所に際して 名が入所されているとのこ きな特色です。現在九十三 であること、隣に「済生会 ホ 同じビル内に特別養護老人 ームがある「特養併設型」 七十歳

阪府済生会「ライフケア中 社会福祉法人済生会支部大 建ビルの八~十階部分で、 ライフケア中津は十四階 今回は大阪市北区にある され、 うです。 層の充実が望まれます。

保健施設ですが、真のニー 採光が遮られることもなく また居室のベッドの間は低 ズに応えられるよう、 とても明るい雰囲気です。 いパネルで仕切られていて 手作りの品が所々に飾ら セントが入所されているそ 家庭事情など総合的に勘 施設の中はご老人たちの 希望者の約七十パー 走段階にある老人

れ

さしい町ってなんだろう of

ているこの町。 でも町の中を少し気をつけて歩いてみると新たな ★普段はなにげな く暮らし することがあります。今回の特集は町へやさしさを探しに出かけてみました。

危険だ」



大

切

福祉

いハ

私たち市民の無理解で利用整備した設備があっても、

しかし、行政でせっかく

いろんなものにさわってみました

行政がハード

面の整備を

られた歩道は、杖やヒール イスを押すのは大変難しい」「道路はかまぼこ型で車 歩き、それぞれの立場で感 のかかとが溝に入って大変 にこだわって四つのグルー 「水はけを考えて新しく作 「鳥の声等の自然 約二時間町を 0

また、

同じように障害者

検討しています。

させるやさしい音だと気付 と電車の隙間が広くて大変 だけでなく車イスの人や乳 の声や車の音も活気を感じ 発見がありました。 のが少ない」等いろいろ 看板が多くて心がなごむも 危険」「町の中には禁止 ムが大変狭くて困る」「駅 母車でも不便」「駅のホー いた」「歩道橋はお年寄り 町中の人 0

い設備はなかなかないようので全ての人が利用しやす用トイレと一口にいっても

して発行する予定です。

です。



誰もが住みよいやさし

「発見がいっぱいだったね」とボランティア

体験報告をしあうボランティア

字ブロックの上に荷物が

たくさんあります。 しにくくなっているもの

かれ視覚障害者がぶつか

てしまう」等。

やさしい町は行政のバ

内場

容所

・ボランティア

市立福祉会館

正午~三時

一月十六日(木

交流会

音だけでなく、

車イスを利用する人にはと方には必要なものですが、 っては不便な場合があり

話し合われました。

ま

想を出し合いました。

プに分かれ、

②町の音③駅④町の案内版

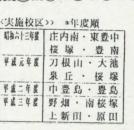
けました。

探検隊は、

①車イス体験

*斜線は実施地区

案



1191920



いただきふれあいの和を広福祉に対する理解を深めて げる福祉の土壌を醸成する 会と共催で「地域の方々に ターでは、各校区福祉委員 市社協ボランティアセン

さんありました。たとえば、 は利用しにくいものもたく の、実際に当事者にとって 行なうのは前提というもの

字ブロックは視覚障害の

座」を開催しています。 度より「福祉の町づくり講 ことを目的に昭和六十三年 の四校区が地域の実情に応 野畑·南桜塚·上新田·原田 講座に取り組んでいます。 じた内容で四回コースの 四年目を迎え、今年は、 受講者は、 「社協のこと

「これからの地域福祉とは…」大場先生

ボランティアも自然一体 さにひたっていると互い の崩壊、雲仙普賢岳の噴と湾岸戦争、バブル経済 がりを大切にしながら、 さに驚きます。 火等、日々のテンポの早 でつきあえたらどんなに に謙虚な心で、 かすばらしい夢のある宗 身も心も、紅葉の美し この一年をふりかえる 人のつな

来がひらけていくのでは 意見、ご希望をお待ちし と思います。 ています。 号に成長しました。 今後も多くの方々のご センターだより も第十 Н

を初めて理解しました」 みたい」等積極的な感想が 「福祉を身近に感じました 「自分も地域で何か始めて

出されています。 都市化が進行し、 近所つ

福祉の町づくり講座 ちあいー」の改訂版を新た ィアセンターまで ました。 り一層内容を充実いたし 事例集なども掲載し、 えてボランティア活動 に作成いたしました。 学びあい・育ちあい・分か では、昨年発行の「ボラ ンティア活動の手引き-ご希望の方はボラン 今回は前回のものに ボランティアセンター 丰引き 改訂版 _作成 ボランティア

0 加

ボランティア活動の 手引き一改訂版

での支えあいのシステムづ

くりは今後大きな課題に

な

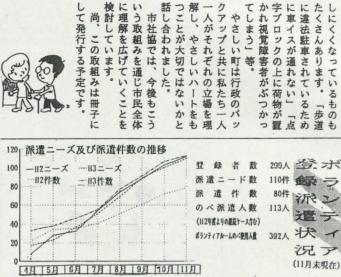
10一番一つ一番一つ一番一つ一番

ってきています。

っている今日、

身近な地域

きあいがますます希薄にな



ふるってご参加ください 活動の

個人の活動紹 等

・各グループ、 交流 ボランティア 派遣先の方と 0

◆登録ボランティア 時

新年の無いご案内 平成四年

ボランティアの広場